

2023 年度 研究報告

# 生涯にわたる豊かな学びを 目指した授業づくり

～児童生徒の夢や願いを基点とした「わかはとシステム」の構築～



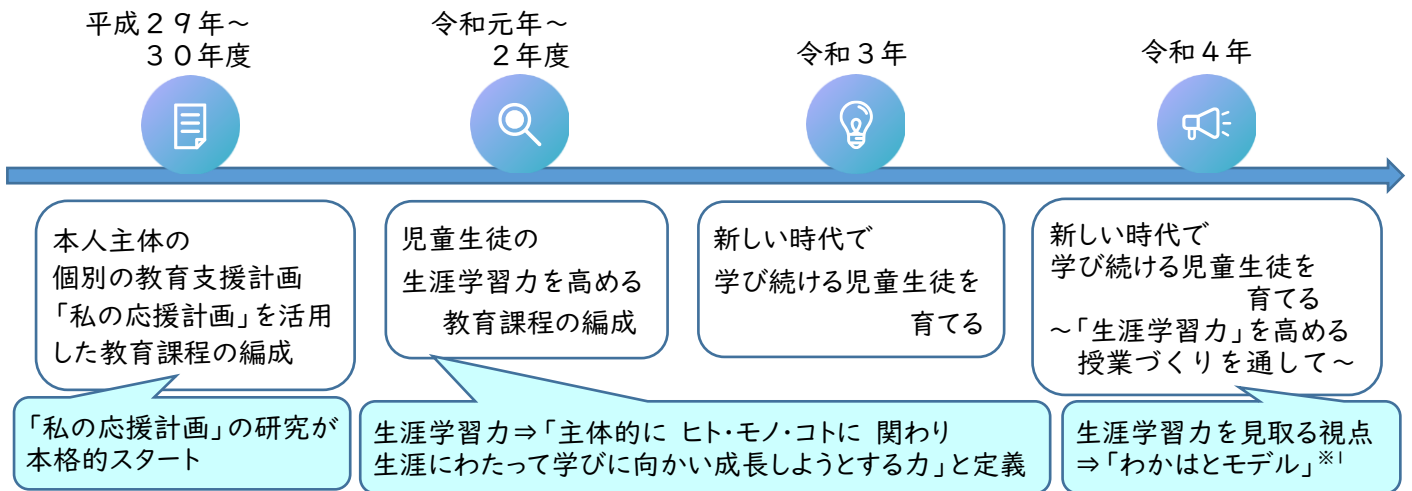
秋田大学教育文化学部附属特別支援学校



# 生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり

～児童生徒の夢や願いを基点とした「わかはとシステム」の構築～（1年次／2年計画）

## 研究主題設定の理由（本校の研究の歩み）



## 課題・目的

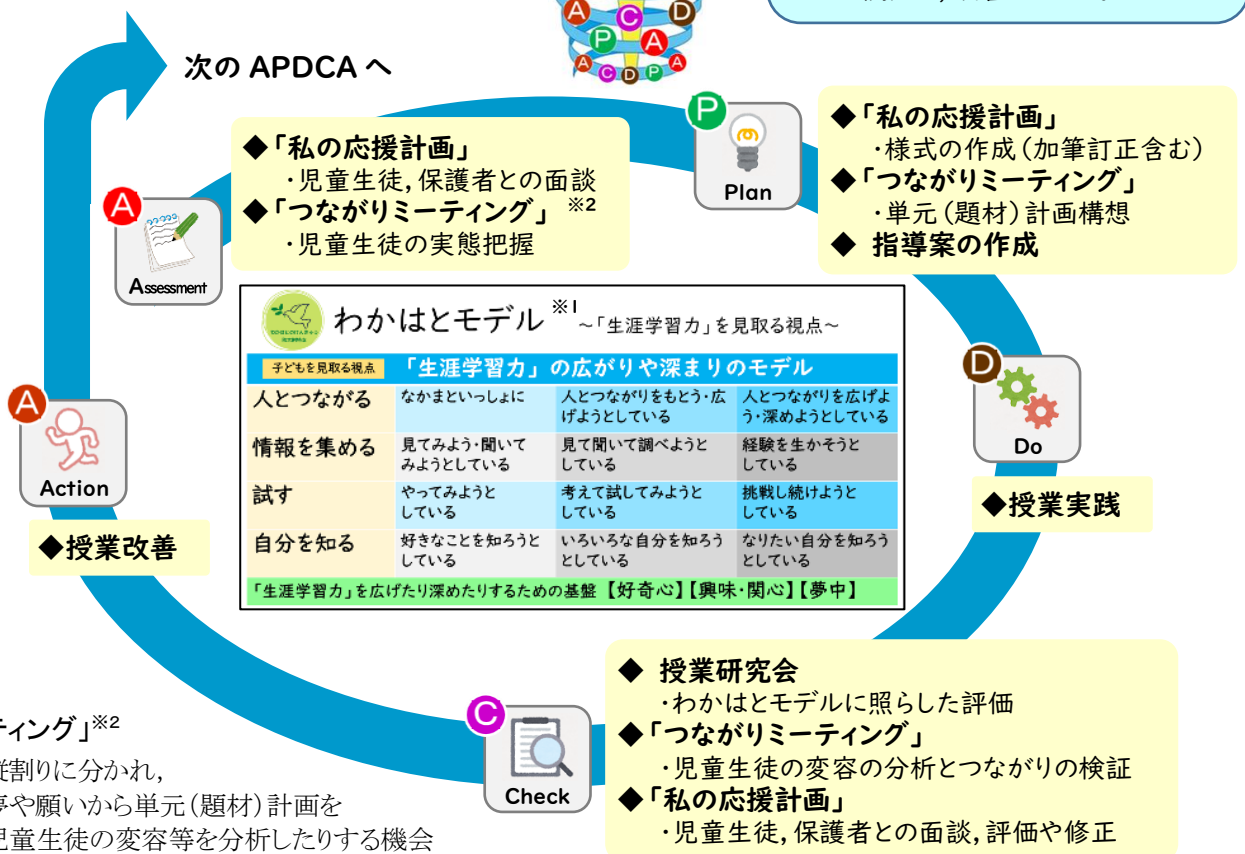
- ・児童生徒の学びが学校、家庭、地域の中でどう役立っているのか、どうつながっていくのかを検証すること
- ・職員の異動により新任職員が「私の応援計画」の目的や意図、その意義の押さえまでは十分に引き継がれていないこと⇒これまでの研究（「私の応援計画」「生涯学習力の育成」等）をつなげ、持続可能な活用できるシステムを構築すること

## 研究の方法と内容（わかはとシステムの全体図）

- 1 「わかはとモデル」の分析と改善
- 2 「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用
- 3 校内外のつながり、卒業後のつながりの検証
- 4 家庭や地域との連携
- 5 「エピソードシート」の活用



「わかはとシステム」は、常に児童生徒の夢や願いを基点とし、子どもと授業をつなげ、「生涯学習力」の育成を目指すものである。その際、APDCAサイクルで検証し、改善していく。



# 小学部（生活単元学習）の授業づくり

## 目的

小学部では、令和3年度から生活単元学習「エンジョイタイム」を設定し、生涯学習力の素地を育むことを目指して「わかはとモデル」（図1）の「夢中」と「好奇心」の要素の膨らみを大切に授業づくりを行ってきた。「エンジョイタイム」において教師は、児童の内面の動きを推察し、興味・関心の対象やその広がりを見取るようにした。

今年度は、「わかはとモデル」を児童の生涯学習力を見取る視点に位置付けた。そして、生活単元学習において、「私の応援計画」と「生涯学習力」の関連を整え、児童の夢や願いを基点にした授業づくりのシステムを、「エンジョイタイム」での授業づくりにおいて得られた知見を基にして構築すること、「わかはとモデル」を“児童の姿を見取る視点”として機能させることを目指した。

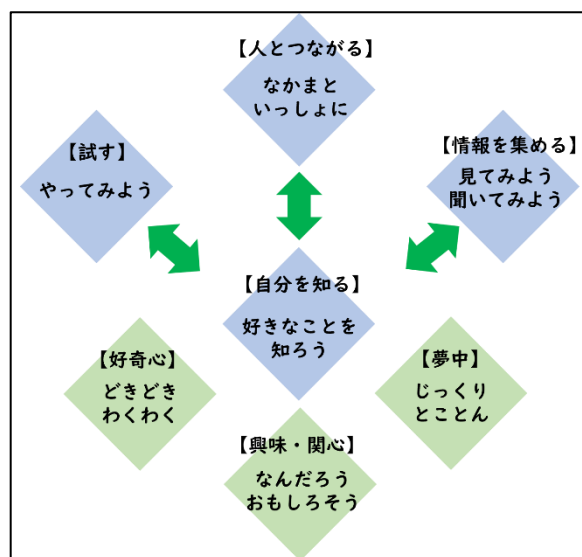


図1 小学部における「わかはとモデル」の捉え

## 内容・方法

### 児童の姿の見取りと共有

児童の夢や願いをくみ取るための個別面談において、「わかはとモデル」の視点を用いながら児童と対話をした。対話を通してくみ取った児童の思いが「わかはとモデル」のどの視点と関連するのかを分析・整理するとともに、見取った児童の姿を、各学級の実態に応じて視覚化（図2）して掲示し、児童が自分の思いを分かりやすく認知できるようにした。また、小学部職員で共有する機会を設定し、横のつながりで児童を捉え直して理解を深めた。さらに、全職員縦割りのグループによるつながりミーティングで、児童の姿を「わかはとモデル」の視点で見取り、縦のつながりで児童の姿を捉えた。



図2 視覚化した児童の姿

### 「私の応援計画」の授業づくりへの反映

児童の夢や願いを基点にした授業づくりをシステム化するため、授業づくりの流れをAPDCAサイクルに沿って策定した。この流れに沿って構想した単元計画について、「つながりミーティング」をA（アセスメント、C（チェック）の機会として活用した。年間4回のつながりミーティングを実施し、単元計画についての確認・検討の他、対象児童の授業でのエピソードによる姿を「わかはとモデル」の視点で整理し、次の単元での授業づくりに向けて大切にしたいことを明らかにした（図3）。また、授業づくりの上で悩んでいることについて意見交換することが、授業のアイデアの広がりやねらいの焦点化、評価の深まりにつながった。さらに、時間軸で児童について話し合うことで、地域とのつながりや、将来とのつながりについて考える機会となった。

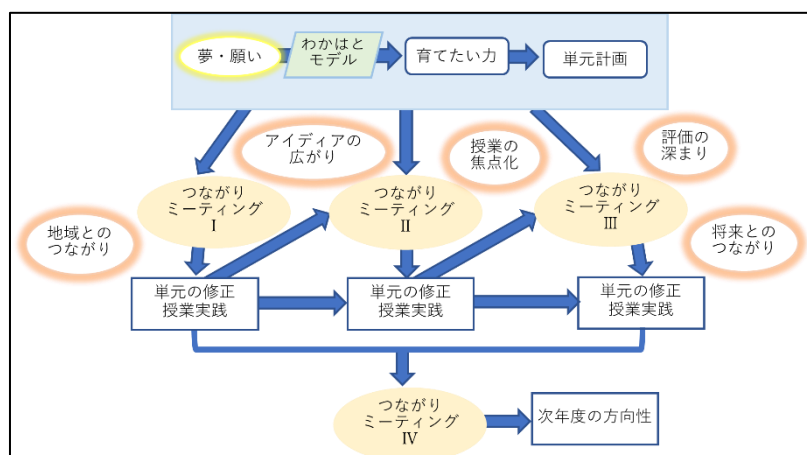


図3 授業づくりと「つながりミーティング」の関連



## 授業の実際

つながりミーティングでの児童の姿の見取りから、「わかはとモデル」のどの視点と関連する力が必要かを明らかにし、期待する児童の変容をイメージして授業の仕掛けを工夫した。

### あおば学級（5・6年生）「レッツゴーあおば～先生たちのおすすめスポットに出掛けよう～」

目的をもって「行きたい」と思えるようにするための仕掛け



#### ○身近な教師へのインタビュー

「行ってきたら教えてね」と伝えることで、その後の展開への必然性につなげる。→「興味・関心」「人とつながる」「情報を集める」

#### ○体験活動

児童の興味・関心に即した地域の施設を選定し、五感を活用した体験活動を設定する。→「好奇心」「情報を集める」「試す」

#### ○振り返りでの思いの表出

思いを呼び起こしたり、表出したりするために、校外学習での様子をまとめた動画を活用したり、訪問先にちなんだ制作物を作る活動を設定したりする。→「試す」「自分を知る」

### ふたば学級（1・2年生）「おはなしふたば～十二支のおはなし～」

友達と関わり合いながら、自分から活動に取り組むための仕掛け



#### ○意欲的に取り組むために

一緒に活動する友達やゲームを自分たちで選択・決定する。  
→「好奇心」「人とつながる」「試す」「自分を知る」



#### ○自信をもって取り組むために

繰り返し同じゲームに取り組んだり、単元の流れを統一したりする。  
→「情報を集める」「試す」「自分を知る」



#### ○関わり合うために

協力が必要なゲームを用意したり、教師も役を演じて関わりをつないだりする。  
→「人とつながる」「情報を集める」

## 成果と課題

児童の夢や願いを基点にした授業づくりのサイクルを積み重ねたことで、授業づくりのシステムが構築され、そのプロセスが教師の中に根付いた。授業づくりの基点に児童の思いを置くことで、児童同士が関わり合いながら、学習活動に主体的に取り組もうとしたり、学んだことや身に付けた力を発揮しながら課題に向かったりする姿につながり、児童が主体的に学びに向かう授業づくりが実現された。また、「わかはとモデル」を活用して児童の見取りを重ねたことで、児童の行動の背景には児童のもつどのような力が働いていたのかや、児童の心の動き、思いなど、児童に寄り添いながら内面を見取ろうとする教師の意識が高まった。そして、目の前の児童の姿を生涯学習力のつながりと関連させながら、より深く見取ることが可能となった。

今後は、「私の応援計画」と「わかはとモデル」をどのようにつないでいくのかを検討し、「わかはとモデル」と育てたい「資質・能力」の関連を明らかにして、子どもの夢や願いに立ち返る評価の在り方を探ることが必要である。

# 中学部(生活単元学習)の授業づくり

## 目的

生徒の「夢」や「願い」を反映した授業づくりを行い、「わかはとモデル」を活用した見取りから生涯学習力の高まりを評価する、APDCAサイクルを機能させることで「わかはとシステム」の構築を目指す。

## 内容・方法

### 「私の応援計画」の作成と分析

生徒の夢や願いを「私の応援計画」及び授業に反映するために整合性を確認し共有した。また、「わかはとモデル」を活用しながら教育的ニーズを整理・分析した。

### 「私の応援計画」の授業への反映

職員縦割りでメンバー構成される「つながりミーティング」を年4回実施した。「私の応援計画」に基づいて行った授業実践、(事例対象)生徒の実態や近況などについて情報共有を行った。また、他学部の視点から質問や提案によって担任(授業者)にとって新たな気づきを得られる場となった。

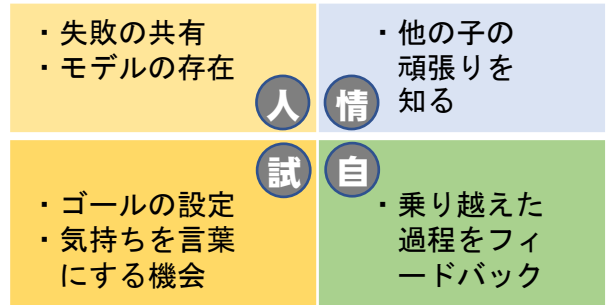
互いに高め合える女子の存在がカギとなるのでは

様々な学習グループでいるんな刺激を

頑張りの見える化が有効かも(数値的な目標など)

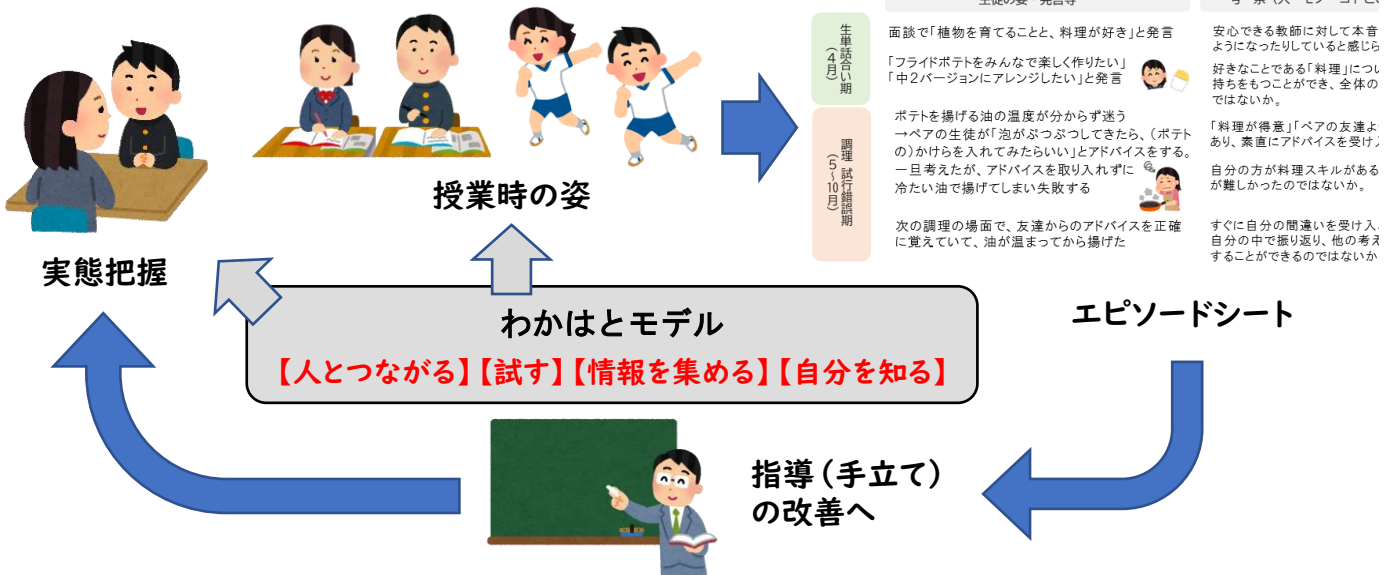


小中高の縦割りグループで意見交換



### 「わかはとモデル」を活用した見取り

生徒の学習の様子を「わかはとモデル」を活用して見取り、授業づくりに生かした。「わかはとモデル」は生涯学習力の高まりを評価するツールとして、実態把握、生徒の行動(言動)の分析、単元終了時の評価など様々な場面で活用した。



## 授業の実際

中学部の合言葉「仲間とチャレンジ」の具現化を目指した授業づくりに取り組んだ。仲間と関わりながら課題解決し、成功経験や達成感を十分に味わう授業につなげられるように、次のようなポイントを共通理解し、実践することとした。授業実践では、生徒の姿から効果的だった手立てや改善点を明らかにした。また、「わかはとモデル」を通じた見取りから生涯学習力の高まりを評価し、授業者や学部内で共有した。

### 【合言葉】仲間とチャレンジ

「誰かのために」  
「誰かに喜んでもらえる」  
テーマ

「繰り返し」「試行錯誤」を  
大切にした単元計画



生徒同士の関わりによって  
課題解決できる状況づくり

話し合い活動

共同作業

振り返り活動の充実

写真・動画

### 効果的だった手立て（授業研究会より）

「お店」「交流会」等を  
ゴールに設定

「喜んでほしい」思い  
を巡らせて準備

お客さんや相手と  
接する経験

感謝される  
褒められる



中3 ピザ7 開店

自分だけでは難しいから  
手伝ってもらおう

もっとこうしたほうが、伝わりやすいぞ

ちゃんと聞いてくれてる



中2 ふしぎ発見 こども園との交流

目的意識・相手意識・  
仲間意識・協力

「自分で」「自分から」  
やってみようとする

「(思いが)伝わる,届く  
ためには」という思考

実感のある  
振り返り

【情報を集める】

【自分を知る】

【人とつながる】

【試す】

生徒の姿から「わかはとモデル」を通して生涯学習力の高まりを評価

## 成果・課題

生徒の夢や願いを反映した授業づくりや「わかはとモデル」を活用した見取りによって生涯学習力の高まりを実感した。「つながりミーティング」は、授業者や生徒に関わることを多面的に検討・意見交換する場であり、「わかはとシステム」の重要な役割を担うものという認識が定着しつつある。生涯学習力に対する職員のイメージを共有することや、その高まりを家庭との連携の中で、日常生活や将来に生かすための在り方などを改めて検討する必要がある。



# 高等部 (D スタディ:生活単元学習) の授業づくり

## 目的

高等部では、生涯学習力を高めることを目的とした「Dスタディ」を令和元年度から実施している。昨年度は、学部研究会における話し合いから、「わかはとモデル」の4つの要素を導き出し、その4つの要素に沿って生涯学習力を高めるための具体的な生徒の姿を意識した授業実践に取り組んだ。生涯学習力を高める授業づくりを通して、生徒が自ら発信していく力や問題解決を図る力が身に付いてきたことが確認できた。

今後に向けて、高等部を卒業した生徒の姿から、生涯学習力を高める授業づくりを通して育まれた力が、社会の中でどのような形で発揮されているのかを見取れるよう、生徒の学び続ける姿を追っていくことが必要だと考えられた。「私の応援計画」、「つながりミーティング」、「面談」、「授業づくり」のそれぞれを関連させるシステムの中で、生徒の変容を見取る視点として「わかはとモデル」を活用することとした。

## 内容・方法

### 「私の応援計画」の作成と分析

「私の応援計画」作成の際に、生徒がより具体的に自身の思い、願いを言葉にできるように、教師は生徒が自分で考え、考えを深められるような問いかけを繰り返し、生徒の気持ちを引き出すようにしている。今年度は、「わかはとモデル」の視点による問い掛けを生徒にしたり、引き出した生徒の思い、願いを「わかはとモデル」の視点から見取ったりした。

私の応援計画 (高等部生徒用)		名前
<b>目指す姿</b> <働く> ・種菜・清掃 <b>自</b> <b>試</b> ・ボランティアの行事	前年度の学習を生かして取り組むこと <b>【前期評価】</b> ・全部の科目で1級を取りたい。(マコース班) ・道明清掃、後輩に教える。 ・シュートボリールの練習を頑張る。 ・強化チームの練習	誰と? <b>人</b>
<b>懸念</b> <懸らす> ・家のまわりのゴミの処理を知りたい。 ・料理・洗濯 <b>自</b> <b>情</b> ・手紙(書い物) <b>人</b>	前年度のために頑張ったこと振り返ること <b>【前期評価】</b> ・空習よく修業もする。 ・運動場での人との関係構築をさらにコミュニケーションを取る。	
<b>楽しむ</b> <楽しむ> ・映画を見たい <b>人</b> ・夢を葉い <b>情</b>	前年度のために頑張ったこと振り返ること <b>【前期評価】</b> ・種菜の手紙もやり進める ・夢叶えたいようにする (休日の基に飯を作る)	どうやって調べる? <b>情</b>

図6 「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用

### 「私の応援計画」の授業への反映

「私の応援計画」を基に計画した授業の実践、検討を繰り返す中で、「つながりミーティング」で単元計画の見直しや評価、生徒の変容等について他学部の職員と話し合った。「つながりミーティング」では、事例対象生徒の授業の様子その他、地域での活動や中学部の頃の様子との比較など、幅広い視点から生徒の姿を話題にした。

### 「わかはとモデル」を活用した見取り

生徒の学習の様子を「わかはとモデル」を活用して見取り、授業づくりに生かした。「わかはとモデル」は生涯学習力の高まりを評価するツールとして、実態把握、生徒の行動(言動)の分析、単元終了時の評価など様々な場面で活用した。

### エピソードシートの活用

実施した単元の前後で生徒にどのような変容があったかを見取り、記録するためのツールとして、エピソードシートを作成した。授業中の様子や学級での会話などから、変容が見られた内容について記録し、授業の反省や次回以降の授業構成の参考にした。

### つながりミーティング

<b>生徒のニーズ</b> ・料理を作れるようになりたい。	<b>エピソード紹介</b> ・調理実習(一人)の前に祖母と練習をした。 ・苦手なこと→自分でできる形で(エプロンのリボン結び) ・「何作りたい?」→前:「……」 今:「チャーハン!」		
<b>人とつながる</b>	<b>試す</b>	<b>情報を集める</b>	<b>自分を知る</b>
	★「できないときにどうするか」の積み重ね		★「一年間ランニングを頑張ったから…」周りが認める ★成功体験、達成感 「去年よりもできている自分」 ★失敗しても大丈夫 ★レジリエンスつけていこう
<b>エピソードが見られた姿を他の場面で生かすと・・・</b>			
<b>学校</b> 学校のつながり 担任が失敗する姿を見せる	<b>エピソード</b> ライフスキルトレーニング どうやって起きる? 朝食は?	<b>家庭</b> 家庭でのつながり 一人暮らし体験 丸1日は自分でやってみる!	<b>地域</b> 地域でのつながり 本当に困ったときに相談できる相手がいるといい
卒業後の生活 実際の様子を先輩たちに聞く	効率のよい方法 もっとよい方法、コツがある!		







# 研究のまとめ

## 研究の実際と成果

### 「わかはとモデル」の分析と改善

・授業研究会やつながりミーティングの際に、「わかはとモデル」を活用することで、児童生徒の生涯学習力の高まりを学校や家庭、地域の視点で分析することができた。

### 「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用

・児童生徒との面談時に、「わかはとモデル」の視点を生かすことで、より対話を大切にすることができた。

### 校外のつながり、卒業後のつながりの検証

- ・他学部の視点を生かした「つながりミーティング」では、多面的かつ複数の目による実態把握と評価が充実した。
- ・卒業生と在校生の保護者へのアンケート調査から卒業生の生涯学習の現状や保護者の願いを知ることができた。

### 家庭や地域との連携

・PTAの際に保護者に研究について説明をしたり、生涯学習に関する保護者アンケートを実施したりすることで、本校の研究について理解を促し、保護者と同じ方向で考えることができた。

### 「エピソードシート」の活用

・児童生徒のエピソードを「わかはとモデル」の視点で見取することで、児童生徒の行動の意図や広がり、思いを分析できた。

### 「わかはとシステム」の構築に向けて

- ・児童生徒の夢や願いを大切に授業づくりを進めることで、児童生徒の主体性を引き出す授業につながった。
- ・指導案の様式に「わかはとモデル」を組み込むことで、関連を可視化し、生涯学習力を見取る視点から授業を展開できた。



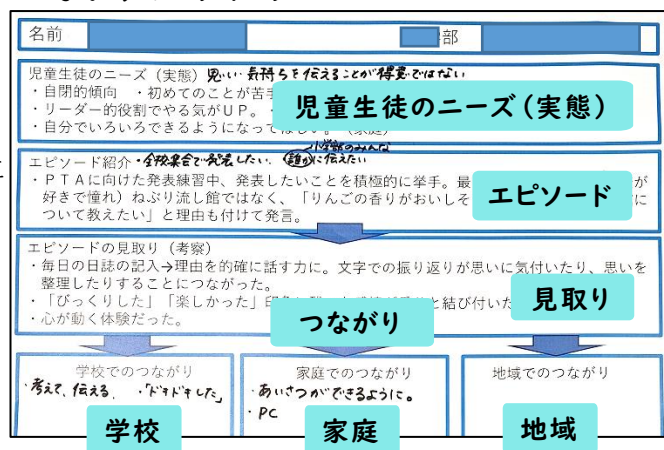
### わかはとモデル ～「生涯学習力」を見取る視点～

子どもを見取る視点	「生涯学習力」の広がりや深まりのモデル		
人とつながる	なかまといっしょに	人とつながりをもとう・広げようとしている	人とつながりを広げよう・深めようとしている
情報を集める	見てみよう・聞いてみようとしている	見て聞いて調べようとしている	経験を生かそうとしている
試す	やってみようとしている	考えて試してみようとしている	挑戦し続けようとしている
自分を知る	好きなことを知ろうとしている	いろいろな自分を知ろうとしている	なりたい自分を知ろうとしている

「生涯学習力」を広げたり深めたりするための基盤 **【好奇心】【興味・関心】【夢中】**

⇒「わかはとモデル」の4つの視点と基盤となる3つの視点を様々な場面で活用した。

### つながりミーティング



「私の応援計画」「つながりミーティング」「わかはとモデル」のそれぞれの取組が、児童生徒や授業づくりを中心としながら、つながることができた。

## 次年度に向けて

### 「わかはとモデル」と育成を目指す資質・能力との関連性の検討

現在使用している生涯学習力を見取る視点である「わかはとモデル」と現行の学習指導要領で示されている育成を目指す資質・能力の3つの観点との関係については、今後更に検討や検証を進めていく。

### 児童生徒の評価、学びの履歴の可視化

学習指導要領の前文には、「児童生徒が、『生涯にわたる学習とのつながりを見通す』ためにもキャリア・パスポートは大切なものである」と示されている。今後は、本人自身による評価や学びの履歴を可視化するツールであるキャリア・パスポートとして「私の応援計画」を活用するなど、更なる充実を検討していく。

### 保護者、地域との更なる連携

今後も続いていく「生涯にわたる豊かな学び」に向け、ヒト・モノ・コトにどのようにつながっているのかを空間軸と時間軸で児童生徒の変容を見取っていくためには、保護者や地域との更なる連携は必要不可欠であり、分析と検証を続けていく。

### 「わかはとシステム」を中核とした教育課程の編成

「わかはとシステム」を本校の教育課程の中に位置付け、今後も持続可能な仕組みとして確立していく必要があると考えている。そのためには、各種の教育計画の整理や関連を図っていく。



# 公開研究協議会の記録

秋田大学教育文化学部 附属特別支援学校  
令和5年度 公開研究協議会 (二次案内) 参加無料

研究主題 (1年次/2年計画)  
生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり  
～児童生徒の夢や願いを基点とした「わかはとシステム」の構築～

令和6年1月27日(土)  
参集型開催 + オンデマンド配信

本校では、「生涯学習力」の育成を目指し、児童生徒、授業ファーストの研究に取り組んでいます。今年度(1年次)は、「私の応援計画(個別的教育支援計画)」と「生涯学習力」の育成をつなげる「わかはとシステム」の構築を進めています。  
※ 主体的にヒト・モノ・コトに関わり生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力、と定義しています。

**日程** ※午前のみ、午後への参加も可能です!

8:50	9:20	10:10	10:25	10:50	11:00	12:10	13:00	14:00	14:15	15:30	15:50
受付	公開授業	移動	(研究説明)全体会	移動	(授業研究会)分科会	昼食・休憩	シンポジウム	休憩	講演	閉会	

**公開授業および授業研究会**

**小学部** 生活単元学習 ふたば学級(1,2年生)  
「おはなしふたば～十二支のはじまり～」  
授業者 武田茜 松尾佑美 平塚達也  
研究協力者 鈴木徹(秋田大学教育文化学部 准教授)  
遠藤拓歩(総合教育センター 指導主事)

**中学部** 生活単元学習(2年生)  
「ふしぎ発見! in こども園～交流会を楽しんでもらおう～」  
授業者 下村光行 伊岡森真由 吉田みずわ  
研究協力者 武田篤(秋田大学 名誉教授)  
島津寛司(総合教育センター 指導主事)

**高等部** 生活単元学習(Dスタディ)月グループ(1～3年生合同)  
「D スタチャレンジャーズ～ファッションを楽しもう～」  
授業者 佐藤英里 高橋浩樹  
研究協力者 藤井康博(秋田大学大学院 教授)  
高橋基裕(中央教育事務所 指導主事)

**シンポジウム**

テーマ  
「夢や願いの実現に向けた  
高等部卒業後の豊かな学びとは?」

コーディネーター：菊地一文 氏  
シンポジスト：本校卒業生、卒業生保護者、本校元職員、福祉関係者 等

卒業生2名の在学中、卒業後の学びのエピソードから学校、家庭、地域、関係機関等とのつながりや豊かな学びに向けたヒントを探ります。

**講演**

演題  
「豊かな学びを未来につなげるために  
～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」

弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 氏

経歴  
1992年から青森県内の養護学校で教壇に立ち、2008年からは国立特別支援教育総合研究所主任研究員や青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事として教育行政に携わる。広島大学大学院教育学研究科非常勤講師・客員准教授、植草学園大学発達教育学部准教授を経て、2019年より現職。

著書  
確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q&A、東洋館出版社、2022。  
知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン-本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて-、ジヤース教育新社、2021、他。

**交通案内**

●バス  
秋田駅西口バスターミナルから 中央交通バス 神田地野線 8番乗り場 約15分  
赤川線 8番乗り場 約15分  
●タクシー  
秋田駅西口から 約10分 秋田空港から 約60分

**申込み**

申込みは右のQRコード、もしくは、URLからお願いします。  
・締め切りは、令和6年1月16日(火)です。部分参加、昼食注文も可能ですので、申込みフォームで御確認ください。  
・参加申込みいただいた方には、1月22日(月)までにメールにて資料をダウンロードできるパスワードをお伝えします。  
なお、オンデマンド配信は、令和6年2月中旬を予定しております。  
・秋田大学の学生は、担当教員を通して参加申し込み願います。

【問合せ】教職 宮野俊美 研究主任 池田和馬

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校  
〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75  
TEL 018(862)8583  
E-mail fuyo@sh.akita-u.ac.jp  
http://www.sh.akita-u.ac.jp/

## シンポジウムの記録 (グラフィックレコーディング※)

- No. 1 . . . . . シンポジウム 登壇者
- No. 2 . . . . . Aさんの語り
- No. 3 . . . . . Bさんと保護者の語り
- No. 4 . . . . . 元職員の語り
- No. 5 . . . . . 福祉関係者の語り

## 講演の記録 (グラフィックレコーディング)

- No. 6～9 . . . . . 講演

※グラフィックレコーディングとは、ホワイトボードや紙に、会議や議論などの内容をデザインとして可視化し、整理していく手法です。



シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

**シンポジウム** 秋田大学教育文化学部附属 No.1  
 特別支援学校 体育館

テーマ  
**「夢や願いの実現  
 に向けた高等部卒業後の  
 豊かな学びとは？」**

**コーディネーター**  
 弘前大学大学院  
 教育学研究科  
 教授 菊地一文氏

役割、やりたいこと大事!

**A さん**

**B さん**

**B さん** (♀)

**高橋基裕** 先生  
 元職員

**神原音子** さん  
 障害者就業・  
 生活支援センター

**A さん**

H29高等部卒業

**心に残っていること**

1. 現場実習  
 ↓ 誰とでも話せるようになりたい
2. 校外学習   
 ↓ バスにどのように乗るか分かった
3. 作業学習   
 ポーチなど作った  
 全国大会出場  
 ↓ 趣味にも

**4. 生徒会活動**  
 卒業後意見をまとめる  
 ことに役立つ

**学ばなかったこと**

1. メイク  
 ↳ 卒業後必要
2. 働くために必要なこと
3. 相談場所   
 ↳ 連絡先を知らない人も

**生涯学習センター**

- ☑ 初めには防災について
- ☑ ボランティアとして
- ☑ 講座参加

**個展** No.2

またやりたい  
 インスタのせた!!

兄弟がいて  
 いずれ一人暮らし  
 家事に不慣れがある

**やってみたい**  
 一人暮らし  
 子育て支援員  
 英語とギター  
 みんなで集まれる  
 場所づくり

ポーチを  
 やった

先生方に教えて頂き  
 自分で調べて予約  
 き、かけは学校  
 バスにも乗れるように  
 家事教えた  
 小さなお母さんに



シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

**B さん**

小学部から調理を学んだ  
  
 小学部 → 高等部ピアノ

修学旅行で調べて計画することを学んだ

**卒業後** **奨励賞**

- ✓アトリエで絵を描く
- ✓カーブスで筋トレ  
一人で行っている

学校での学びがきっかけで地域に支えられている  
 美容院も小学部にバス1人で乗る目標達成

**やりたいこと**

1. アトリオンで絵の展覧会
2. ドラマの聖地巡礼
3. ミュージカルを見る
4. よしものお笑いを見る

たくさん歌いたい  
これから行く

豪華なマンション  
買ってみたい

Q 何に夢中?  
相棒に夢中  
嵐に入りたい

Q 自分で決めて行動?  
自分で決めたことが大多数  
家族も楽しんで行動

No. 3

**高橋基裕先生**  
11年間勤務 元職員

**A さん**

感情の起伏があった  
 →   
 →

高2で生徒会長  
キャプテン → チームまとめた

役割 → Xリハリ  
背中を叩ける 仲間の存在

**惹かれるところ**

- ✓話していると楽しい
- ✓やるときはやる!

**B さん**

ハキハキしている!  
 中学部で病気に  
 病院で手術  
 → 元気になった

**いいところ**

- ✓人の良いところをさがす
- ✓人の気持ちがわかる
- ✓最後まで頑張る

力になっている  
 ✓家族のサポート  
 ✓健康  
 ✓前向きな気持ち

Q 応援計画について  
 自分と話をし → 将来役立つ  
 主体的に選択でき  
 自分で切り開く力  
 自分ごとの学びになっている

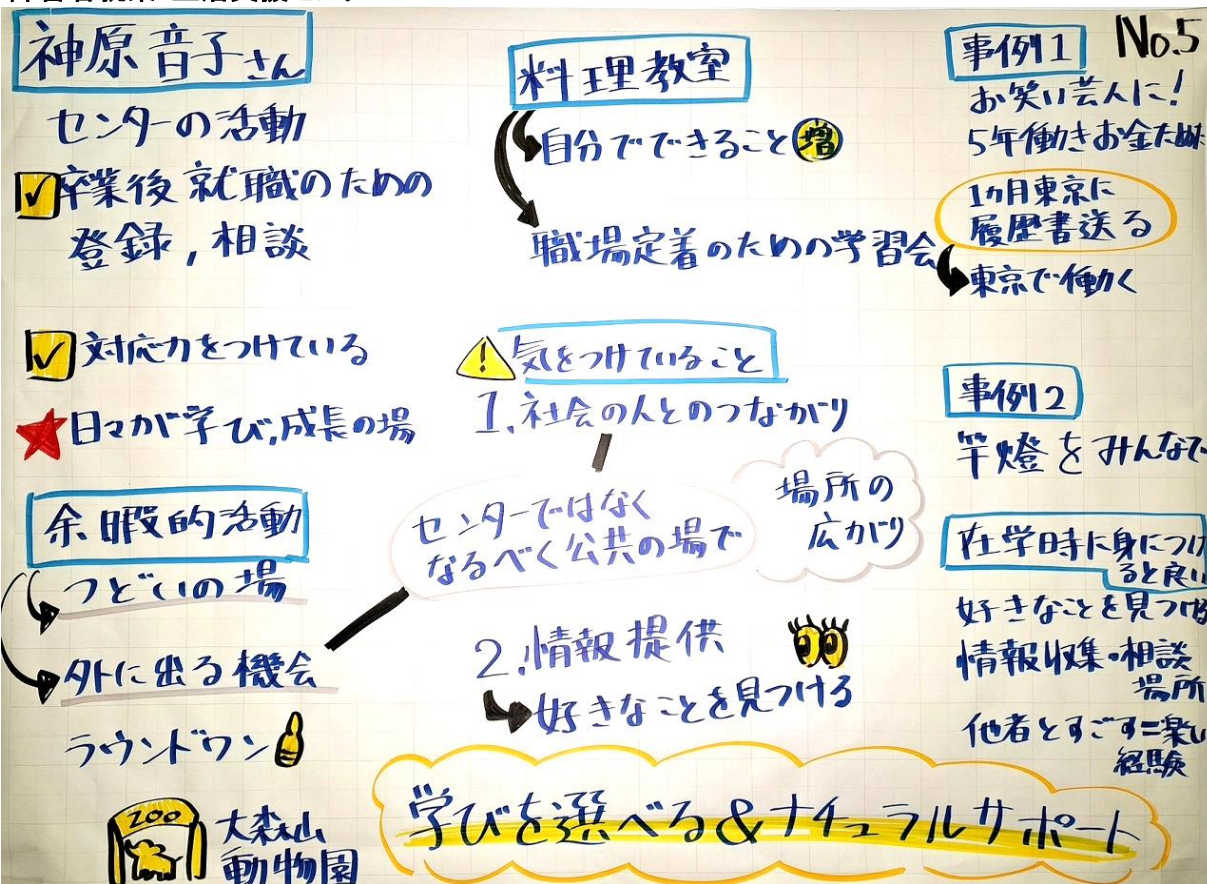
No. 4





シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

障害者就業・生活支援センター





講演 「豊かな学びを未来につなげるために～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」  
弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 様

## 講演

# 豊かな学びを未来につなげるために

～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～

弘前大学 大学院  
教育学研究科  
教授 菊地 一文 氏

キーワードは…

キャリア

E-ジェンシ

ウェルビーイング

→ 学習の中に取り入れられるように!

### NO.6

## 1. 豊かな学びについて考える

語り合って具体化が必要

だれのため? どこで? どうやって? どう活かす?

↓

具体的にどう? 周囲はどう変わる? どういう支援が必要か? が見えてくる。

### 本日の公開授業での気づき!

子どもの行動・姿に「驚き」

「お前の芽生えが見えた!」

× 教えこみ

受け手 開き手

「かたの霧田様」

↓

「手応えあふれ変わった!」

集中

他者意識の記述も!

自分の考えを決める時  
相手の考えを決める時  
の育ちがあった

### NO.7

何に心が重くののか?

何をどう判断しているのか?

↓

個別最適  
な学び

子ども  
を中心に

協働的  
な学び

…が求められている

### well-being に向けた Agency

学習の場

周囲の他者や社会にいい影響を与える力

他者  
社会

自分の学び  
実践

目標 (自覚) 具体的 が大切

↑

ヒト・コト・モノの出会いが必要

↓

4つの 学ぶ意欲

- 内容ごたけ型
- 関係ごたけ型
- 条件ごたけ型
- 自己ごたけ型

↑

思い

の理解に繋がる

他者 からの 価値が

↑

体験の積み重ね

学ぶ意欲が生まれる



講演「豊かな学びを未来につなげるために～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」  
 弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 様

### 2. ヒト・コト・モノをつなげた通じた キャリア発達支援

心が重んじられる 実際の学び / 主体的な 学び

英検 / 野鳥 / あいさつ

社会にも影響する!

単元・総合学習

生活学習モデル

「居住地相互交流」の効果を例にぜひ語り合ってください!

ある親御さんからの

### 3. 対話とおし学びをつなぐ キャリアパスポート

個別の指導計画 → 本人の願いに注目して作成

対話のツール

活用

作成の枠外 指導に活用 変更OK!

- 可視化・具体化
- ICT活用
- 対話サイクルとマテリアル
- 教師の力量形成のために学び合おう

①状況 ②心情 ③背景 ④展望

### ① 将来につながる いまを記録

目標

キャリアパスポート

② しまにつながる  
いまを捉え直す

目標の可視化  
つなげる学習

なりたい自分  
必要なこと  
とりかかろう

Point! やってきたことを  
仲間と語り始める!

増えやすい  
問いを投げかける

友だち同士で  
話す・解決することも大切

共感し  
納得したい!

× 正しい答えを導き出すための問い

### 省察による学び育ち

過ぎ 起きたことと振り返る

視野の広がりが

Q. キャリアパスポートの卒業後の活用事例は?

A. 事業所とのやり取りで使っている学校も!

目標

本人が持っているもの

まだまだ事例は少ない...

資料が増えたらEP巻...

知り知り  
とすることが大事

秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第46号 別冊  
附属特別支援学校・令和5年度研究紀要 第50集 抄録

印刷・発行 令和6年3月

発行 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校  
〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75

TEL 018-862-8583

FAX 018-862-8525

研究紀要本文はHPを御覧ください。

本校HP



Instagram

